

## 温州ミカンの浮皮防止に関する研究

(第1報) クレフノンによる浮皮防止効果について

栗山隆明・吉田 守・下大迫三徳

(福岡県立園芸試験場)

KURIYAMA, T., YOSHIDA, M. and SHIMOOSAKO, M.

Studies on the Control of Rind Puffing of Satsuma Mandarin

(1) On the Effects of the Clef-non (CaO<sub>3</sub>)

西南暖地における温州ミカンは浮皮の発生がひどく、品質に大きく影響するので、この浮皮発生を防止することが必要である。そこでクレフノン(炭酸カルシウム水和剤)散布による浮皮防止効果を検討したので、その結果を報告する。

## 1. 試験方法

(試験1) 薬剤による浮皮防止試験: 供試薬剤はクレフノン50倍, 100倍, クレフノン50倍+樹脂100倍, J-455の200ppm, GA<sub>3</sub>の5ppmを1973年10月18日に散布した。処理は普通温州の成木を用い、枝別処理で3回反復した。

(試験2) クレフノンによる浮皮防止試験(現地試験): クレフノン50倍+樹脂100倍とクレフノン50倍を1974年10月15日に散布した。処理は杉山温州の成木を用い、1区1本の5回反復した。

(試験3) クレフノンの剤形と効果について: クレフノン50倍+SSMP200倍, クレフノンU50倍, GA<sub>3</sub>の5ppmを1974年10月15日に散布した。処理は普通温州の成木を用い、枝別処理で3回反復した。

## 2. 試験結果および考察

(1) 供試薬剤の中で浮皮防止効果が認められたのは、クレフノン50倍+樹脂区, GA<sub>3</sub>区, クレフノン50倍区であり、特に50倍+樹脂区ではGA<sub>3</sub>区以上の効果が認め

第1表 各種薬剤による浮皮防止効果(1973)

処 理	無(1)	軽(1)	中(2)	甚(3)	浮皮度 平 均
クレフノン 50倍	42.9	50.3	6.8	0	0.64
〃 100倍	14.0	46.6	30.7	8.7	1.34
クレフノン50倍+樹脂	69.2	30.2	0.6	0	0.31
J-455 200ppm	27.3	50.0	17.3	5.4	1.00
GA <sub>3</sub> 5ppm	54.2	44.3	1.5	0	0.47
無 処 理	12.4	47.2	27.7	12.7	1.41

られた。なお、葉害はGA<sub>3</sub>区とJ-455区において葉斑が一部の果実に認められた。果実の比重は浮皮の程度とほぼ一致し、クレフノン50倍+樹脂区が最も高かった。クエン酸、全糖や糖度には一定の傾向は認められなかった。

(2) 浮皮防止の効果はクレフノン区において認められ、特にクレフノン+樹脂区の効果が大きく、浮皮程度の無が無処理区の約2倍であった。採収2週間後における予措程度は、クレフノン+樹脂区, クレフノン単用区, 無処理区の順であり、クレフノン散布区の予措効果が高かった。

(3) 浮皮はGA<sub>3</sub>区が最も少なく、ついでクレフノンU区, クレフノン50倍+樹脂区の順で、無処理区が最も甚だしかった。着色はクレフノン区ではいずれも無処理区との差はなかったが、GA<sub>3</sub>区は明らかに緑斑が残った。果汁成分や果肉歩合については一定の傾向は認められなかった。

(4) 以上のことから、クレフノンUは葉害がなく、浮皮防止の効果が認められるので、クレフノンUの50倍液散布の実用性は高いものと考えられる。

第2表 クレフノン散布と浮皮防止効果(現地)

(1974)

処 理	無	軽	中	甚	浮皮度 平 均
クレフノン50倍+樹脂	64.8	31.0	3.6	0.6	0.40
クレフノン 50倍	50.8	39.8	8.0	1.4	0.60
無 処 理	37.4	48.6	11.0	3.0	0.80

第3表 クレフノンの剤形と浮皮防止効果(場内)

(1974)

処 理	無	軽	中	甚	浮皮度 平 均
クレフノン50倍+樹脂	51.2	37.6	10.3	0.9	0.59
クレフリン U 50倍	62.1	33.3	4.6	0	0.42
GA <sub>3</sub> 5ppm	71.6	26.4	2.0	0	0.30
無 処 理	42.4	42.6	12.4	2.6	0.72